

現代社会の深層構造と人権

ハンセン病問題と脱原発の社会哲学的考察

本書のテーマは、「現憲法体制へと移行して代社会の深層構造と人権」である。このテーマに対して著者は二つの歴史的事件を取り扱っている。一つは2001年5月のハンセン病国家賠償請求訴訟に対する熊本地裁判決であり、もう一つは、いまもお終息しない東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故、いわゆる原発震災である。この二つの事件は、著者にとって「学問的立脚点」と思想の再検討を要する格別の意味を持った事件」であり、「思想形成と展開を支える経験」となったのである。

第1部の「ハンセン病問題の深層構造と人権思想」では近現代日本の闇の中に打ち捨てられ封印されてきたハンセン病患者の問題とは、われわれにとってどういう意味を持つのかを問うている。ハンセン病は、1907年に「癩予防に関する件」が制定されたのを契機に長らく絶対隔離・撲滅政策の対象とされてきた。ハンセン病患者・回復者の人権回復は、戦後

憲法体制へと移行しても、絶対隔離・撲滅政策が継続され、同法廃止は、1996年の「らい予防法廃止に関する法律」の成立を待たなければならなかった。

明治期の「富国強兵」から「生産増強」そして戦後の「高度経済成長」に至る国民国家の形成のなかで、著者が強調するのが「生産力ナショナリズム」と「公共の福祉」および「構造的暴力」の概念である。現行の日本国憲法に規定されている「公共の福祉」は、多数派の快楽の極大化を優先する優生思想的、社会防衛的な機能や論理として作用しており、これを大義とする国策が、人権侵害を長期にわたり生み出し続けている。1943年にアメリカで顕著な効果を確認された新薬プロミンの日本への導入は太平洋戦争によって阻害さ

れた。戦後の1949年にようやく一般的に使われるようになった。しかし本来であれば、人権を侵害する隔離政策の廃止に向かうはずのプロミンに

公共の福祉が導く構造的暴力

「公益」優先の功利主義を糾弾する

西角 純 志

よる治療は、療養所のみで使用されたがゆえに治療のための隔離を促進し、隔離政策を強める方向に働いたのだ。著者によれば、そこには社会的なかに支配、搾取、不作為、不平等などの社会的不正義の状態を生み出す「構造的暴力」が働いていたという。著者は「生産力ナショナリズム」に支えられた「公共の福祉」＝「みんなの幸せ」

技術の発展と称して人工的に造り出したがために、人々を不安と恐怖に陥れ、人間社会を弱かし続けているということがある。原子力は平和技術であると声高にいわれたが、原子力技術は本質的には核爆弾と変わらない。何故、「人道に対する罪」として原子力が規定されないのか。

あるにもかかわらず、「核兵器禁止条約」に参加である。著者はこうした状況に対して倫理・権力・人権の観点から考察を進め、現実社会には相容れない世界観や価値観、利害関心、既得権益、自己保身といった要素が複雑に絡み合っているとして重層的に働いていることを力説している。

評者が注目したのが、チェルノブイリ原発事故を契機として環境保護運動として自然発生的に誕生した「緑の運動」を母体とする「欧州放射線リスク委員会（ECRR）」の2010年の報告「放射線被ばくによる健康影響とリスクの評価」である。報告のなかには第二次世界大戦後にニルンベルク裁判で議論された「人道に対する普遍的な犯罪」がある。報告は、「人道に対する普遍的な犯罪」がある。報告は、ドゥオーキンの権利論やロールズの「正義論」などの「人権の哲学」を踏まえ、放射性汚染物質の放出は「身体への不可侵の権利への侵害」であり、放射線被ばくの問題にも適用すべきだと提案している。

2017年7月に「核兵器禁止条約」が国際連合総会で採択され、2021年1月には50カ国以上の批准を経て発効されている。だが、原子力と核兵器との互換性にもかかわらず、「平和目的での原子力保有」禁止が明記されていない。それは

ハンセン病問題と脱原発という二つの論考を通して見えてきたのは、「公益」を「人権」より優先する功利主義的な考え方である。それは、異質性を排除するアウシュヴィッツの思考原理と同質のものである。近代の同一性原理が否定しようとしても否定しきれない非同一的なものの尊厳の頭れ、それが、ハンセン病患者・回復者による違憲国家賠償請求訴訟であり、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の活動である。ハンセン病患者・回復者が国賠償訴訟に踏み切った時、そこに立ち上がってきたものは、「生命の尊厳」を回復すべく不正義を弾劾する叫びであった。それは、国民国家原理に回収されつくせない普遍的な「非同一般的なもの」の頭れであるといえよう。

第2部は、「原子力文明の批判と脱原発の倫理的基礎づけ」である。福島原発事故で遭遇した事態とは、原子力という自然界には存在しない制御不能な放射性物質を科学

専修大学講師・社会学・社会思想史

★なかじま・よしひろ
II 桜美林大学教授・社会学・人権学。



A5判・324頁・3300円
論創社
978-4-8460-2474-1
TEL. 03-3264-5254